

函館工業高等専門学校	開講年度	平成29年度(2017年度)	授業科目	情報理論
科目基礎情報				
科目番号	0384	科目区分	専門 / 必修	
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 1	
開設学科	生産システム工学科	対象学年	4	
開設期	後期	週時間数	1	
教科書/教材	情報理論 (三木成彦 吉川英機 著, コロナ社) /はじめての情報理論 (稻井寛 著, 森北出版), 配布プリント			
担当教員	倉山 めぐみ			

到達目標

- 1.情報量の概念・定義を理解し、実際に計算することができる。
- 2.情報源のモデルと情報源符号化について説明できる。
- 3.各種エントロピー、相互情報量を理解し、計算することができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	さまざまな情報量・エントロピーを実際に計算することができる。	授業で扱った情報量・エントロピーを実際に計算することができる。	授業で扱った情報量・エントロピーを実際に計算することができない。
評価項目2	情報源符号化について理解でき、さまざまな情報源符号を符号化できる。	情報源符号化について理解でき、授業で扱った情報源符号を自力で符号化できる。	情報源符号化について理解できず、授業で扱った情報源符号を自力で符号化できない。
評価項目3	さまざまな各種エントロピー、相互情報量を計算することができる。	授業で扱った各種エントロピー、相互情報量を計算することができる。	授業で扱った各種エントロピー、相互情報量を計算することができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	情報理論は、情報伝達・蓄積の効率化・高信頼化に関する基礎知識であり、今日の情報化社会を支える基盤となっている。ここでは、数学的な内容に偏ることなく、例題及び問題演習を通して理論の本質を学習し、より実践的な情報理論に応用できる基礎知識を習得する。
授業の進め方・方法	学習上の留意点 確率、線形代数的な知識を必要とするため、各自復習しておくこと。 特に、確率と対数計算は多用するので、必ずできるようにしておくこと。 レポートは、授業内で行った演習課題等が基本となるため、授業へ積極的に参加してほしい。 関連する科目 基礎数学、微分積分、線形代数、確率・統計
注意点	JABEE教育到達目標評価 定期試験70% (B-3), 課題30% (B-3)
授業計画	

	週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	1週	ガイダンス 通信システム、標本化定理と量子化	授業の進め方、評価方法を理解する。 通信システムのモデル、標本化定理・量子化を説明できる
	2週	情報源モデル(コア)	情報源モデルが理解できる
	3週	情報量、エントロピー(コア)	情報量、エントロピーが説明でき計算できる
	4週	情報量、エントロピー(コア)	情報量、エントロピーが説明でき計算できる
	5週	平均符号長	符号化、平均符号長を理解できる。
	6週	情報源符号化定理(コア)	情報源符号化定理を理解できる
	7週	ハフマン符号(コア)	ハフマン符号を作ることができる
	8週	中間試験	
4thQ	9週	中間試験解答返却・解答解説 算術符号, ZL符号	試験問題の間違った箇所を理解できる 算術符号, ZL符号を理解し作ることができる
	10週	結合エントロピーと条件付きエントロピー(コア)	結合エントロピー、条件付きエントロピーが理解でき計算できる
	11週	結合エントロピーと条件付きエントロピー(コア)	結合エントロピー、条件付きエントロピーが理解でき計算できる
	12週	相互情報量(コア), マルコフ情報源のエントロピー	相互情報量、マルコフ情報源のエントロピーが理解でき計算できる
	13週	相互情報量(コア), マルコフ情報源のエントロピー	相互情報量、マルコフ情報源のエントロピーが理解でき計算できる
	14週	まとめ	
	15週	期末試験	
	16週	試験答案返却・解答解説	・間違った問題の正答を求めることができる

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ
総合評価割合	70	30	0	0	0
基礎的能力	0	0	0	0	0
専門的能力	70	30	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0